

広報

Ako City
Public
Relations



「人が輝き
自然と歴史・文化が薫る
やさしいまち」
の実現に向けて



国の重要無形民俗文化財「坂越の船祭」。権伝馬の船競漕やバタカケ、獅子舞、御船歌など行われ、大勢の観衆で賑わいました。(10 / 11)

平成26年度決算のあらまし p 2～9
1 一般会計決算 2 財政分析 3 市債 4 基金
5 債務負担行為の状況 6 企業会計手法による財政状況の分析
病院事業の決算 p 10～11
水道事業の決算 p 12～13
介護老人保健施設事業の決算 p 14
平成27年度予算上半期の状況 p 15
写真で見る決算 p 16

'15
財政特集号
平成26年度
決算
平成27年11月10日発行

1 一般会計決算

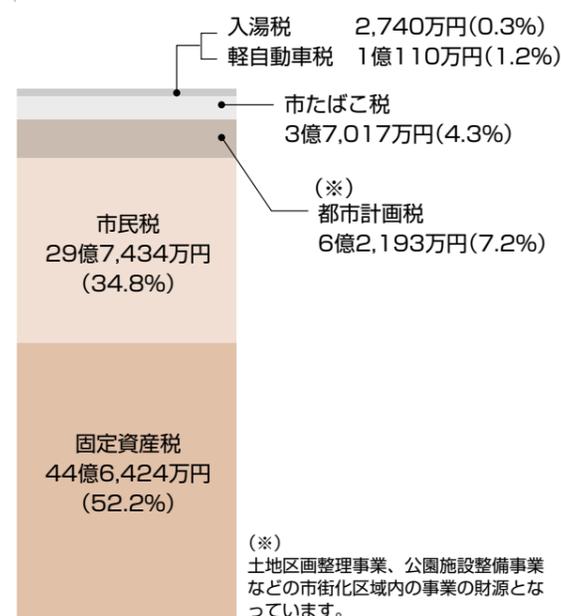


歳入総額
222億1,023万円

自主財源 **104億4,897万円** (47.0%)
依存財源 **117億6,126万円** (53.0%)

市税の内訳

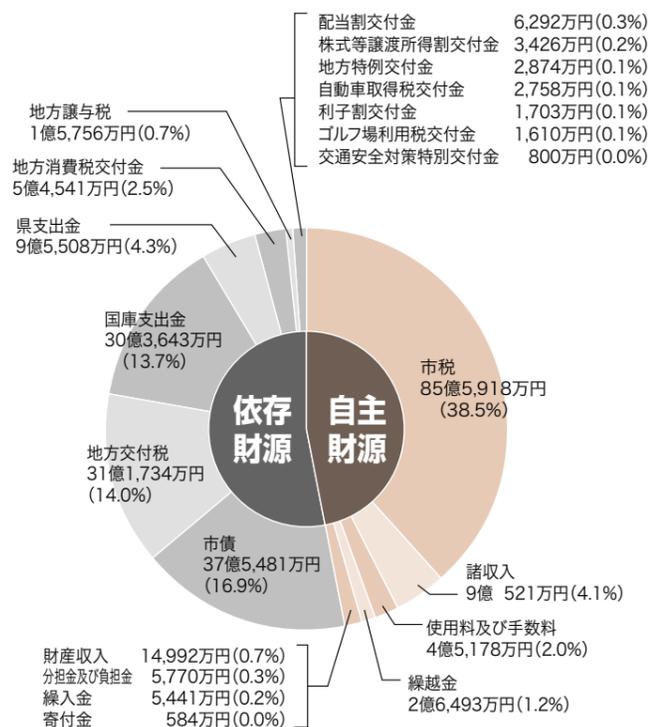
総額 **85億5,918万円**



市の会計の中心をなす一般会計の決算収支は、歳入が222億1,023万円、歳出が218億8,080万円で、歳入・歳出の差引き額から翌年度に繰り越すこととなった財源を差引きした実質収支は2億8,295万円となりました。

歳入決算は、前年度と比べ12.8%の減少となりました。主な特徴として、地方交付税が4.3%の減、第三セクター等改革推進債等の減により市債が45.9%の減となる一方、市有土地売却等により財産収入が143.7%の増となっています。

市税など市が自身で収入することができる財源(自主財源)の歳入全体に占める割合は、前年度比6.1ポイント増加して47.0%となっています。多様な行政サービスを提供していくうえで、この割合が高いほどより自主的かつ安定した事業を展開することができます。



「人が輝き 自然と歴史・文化が薫る やさしいまち」の実現に向けて

平成26年度は、「人が輝き 自然と歴史・文化が薫る やさしいまち」の実現を目指し、市政の5本柱である

- 【学び】 生涯にわたり夢を育むまち
- 【連携】 市民と行政がともに歩むまち
- 【安心】 安全・安心に生活できるまち
- 【快適】 自然と共生する住みよいまち
- 【にぎわい】 産業と交流が盛んな活力のあるまち

を軸に推進し、厳しい財政環境のなか、人口減少社会に的確に対応するため、施策・事業の優先順位の厳しい選択と集中を行い、財源の確保と行財政の健全運営に留意しながら、市民福祉の増進に努め、誰もが希望と誇りをもって住み続けたいと思えるまちづくりを推進しました。

平成26年度における財政状況は、歳入において、地方消費税交付金や市有土地売却等による財産収入の増があったものの、地方交付税に臨時財政対策債を加えた実質的な地方交付税総額が減少したことや、第三セクター等改革推進債が皆減したことなどにより、歳入総額は減となりました。

一方歳出は、土地開発公社解散経費が皆減したほか、道路橋梁新設改良事業等の減により、歳出総額は減となりました。また、財政構造の健全化を図るため、事務経費の一層の節減を行うなど、簡素でより効率的な財政運営に努めるとともに、「第7次赤穂市行政改革大綱」に基づき、中長期的な視点に立った取り組みを行いました。

各会計別決算状況

(1万円未満四捨五入)

会計区分	歳入			歳出			
	26年度	25年度	伸び率%	26年度	25年度	伸び率%	
一般会計	222億1,023万円	254億7,651万円	△12.8	218億8,080万円	252億1,167万円	△13.2	
特別会計	国民健康保険事業	56億9,609万円	57億828万円	△0.2	56億8,817万円	56億9,767万円	△0.2
	職員退職手当管理	7億1,948万円	7億4,249万円	△3.1	7億1,948万円	7億4,249万円	△3.1
	公共下水道事業	41億9,393万円	50億307万円	△16.2	41億9,383万円	50億307万円	△16.2
	農業集落排水事業	2億9,916万円	2億8,527万円	4.9	2億9,916万円	2億8,527万円	4.9
	墓地公園整備事業	805万円	1,065万円	△24.4	805万円	912万円	△11.7
	介護保険	37億7,436万円	35億6,074万円	6.0	37億5,026万円	35億4,934万円	5.7
	駐車場事業	1億2,299万円	1億2,159万円	1.2	1億2,299万円	1億2,159万円	1.2
	土地区画整理事業清算金	-	123万円	皆減	-	113万円	皆減
	後期高齢者医療保険	6億5,076万円	6億1,606万円	5.6	6億3,558万円	6億315万円	5.4
	小計	154億6,482万円	160億4,938万円	△3.6	154億1,752万円	160億1,283万円	△3.7
企業会計	病院事業	94億4,001万円	96億1,334万円	△1.8	114億513万円	102億398万円	11.8
	介護老人保健施設事業	3億2,277万円	2億9,992万円	7.6	3億3,153万円	3億438万円	8.9
	水道事業	15億1,413万円	12億8,457万円	17.9	20億3,119万円	17億5,538万円	15.7
	小計	112億7,691万円	111億9,783万円	0.7	137億6,785万円	122億6,374万円	12.3
合計	489億5,196万円	527億2,372万円	△7.2	510億6,617万円	534億8,824万円	△4.5	

(注：企業会計には消費税額を含む)

平成26年度市民1人当たりの決算額 **1,022,469円**

※平成27年1月1日現在の住民基本台帳人口49,944人で計算したものです。

一般会計 **438,107円**

特別会計・企業会計 **584,362円**

2 財政分析

市の財政の状態を分析するうえで用いられる指数及び比率には、次のようなものがあります。

①財政力指数(3カ年平均)

地方公共団体の財政力を示す指数として用いられ、1を超えるほど財源に余裕があるとされています。

	26年度(H24~H26)	25年度(H23~H25)
赤穂市	0.718	0.715
県平均	0.730	0.723
県内市平均(神戸市除く)	0.730	0.727

②経常収支比率(普通会計ベース)

人件費や公債費など、経常的に支出しなければならない経費に充てられた一般財源の経常一般財源(毎年経常的に収入され、用途を特定されないお金)総額に対する割合を、経常収支比率といいます。

この比率が高いほど自由に使えるお金の割合が少なく、道路や公園の整備をはじめ、市民の新しいニーズにこたえていく余力がなくなっていることを意味します。

	26年度	25年度
赤穂市	89.2	87.5
県平均	92.4	91.6
県内市平均(神戸市除く)	91.1	90.6

③市債・基金1人あたり現在高(普通会計ベース)

家庭では、家を建てるときや車を買うときに借り入れる「ローン」にあたる「市債現在高」と「貯金」にあたる「基金現在高」を人口一人あたりに直すと以下のとおりです。

	市債現在高(借金)	基金現在高(貯金)
赤穂市	562,602円	80,402円
県内市平均	513,311円	72,139円



財政健全化判断比率

1 実質赤字比率

標準財政規模(市税などの一般財源の標準規模)等に対する、実質赤字額の比率です。

2 連結実質赤字比率

公営企業会計を含む全会計の赤字や黒字を合算し、市全体としての赤字の程度を示します。

3 実質公債費比率(3カ年平均)

標準財政規模等に対する、市が借り入れた借金(市債)の返済費用である公債費や、病院事業・下水道事業などの公営企業会計に対して公債費の補てんのために支出した額(繰出金)の合計額の割合を表す指標で、市の実質的な借入金の負担比率を示します。18%を超えると市債の発行にあたり県の許可が必要になりますが、平成26年度決算においては9.8%となり、前年度比で0.4ポイント減少しています。

4 将来負担比率

病院事業・水道事業を含め、市として将来負担すべき実質的な負債の総額の標準財政規模を基本とした額に対する比率です。

一般会計等の借入金(地方債)や将来払っていく可能性のある負担等の、現時点での残高を指標化しており、将来、財政を圧迫する可能性の度合いを示すもので、比率が低いほど財政状態が良いことを表します。

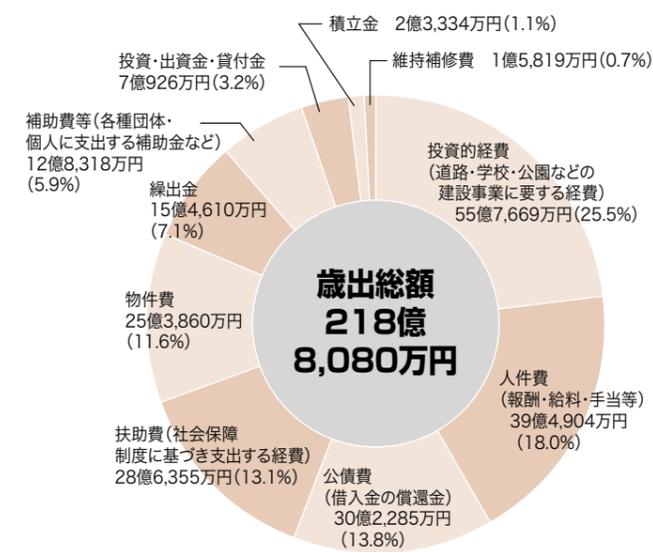
区分	1 実質赤字比率	2 連結実質赤字比率	3 実質公債費比率	4 将来負担比率
赤穂市	—	—	9.8	131.8
県平均			9.3	70.7
県内市平均(神戸市除く)			9.4	66.2
早期健全化基準	13.03	18.03	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	30.00	35.0	

実質赤字額及び連結実質赤字額がない場合は、「—」と記載しています。



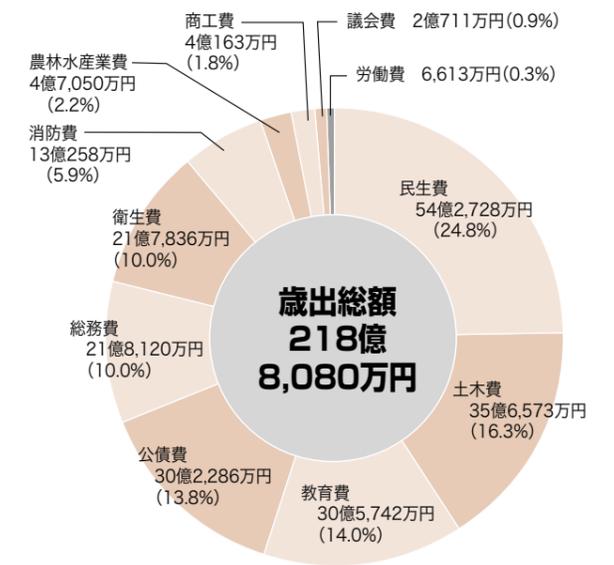
歳出

経済的性質を基準として分類され、これにより経費の構造や財政体質を知ることができます。



目的別内訳

各行政目的別、つまり各部局ごとの仕事の内容によって分類され、これにより各部課ごとの経費の比重を知ることができます。



市民1人あたりの決算額(目的別)



6 企業会計手法による 財政状況の分析

赤穂市の財政状況を検討する一つの手法として、企業会計的な考え方を取り入れた「財務書類4表」を作成しています。「バランスシート（貸借対照表）」「行政コスト計算書」「純資産変動計算書」「資金収支計算書」の4表から、資産や負債の状態（ストック情報）や行政サービスに要したコスト（フロー情報）、実際の資金の流れをみることで、より詳細にわかりやすく財政状況を把握できます。

① バランスシート

資産	1,113億円
(市民1人あたり)	223万7千円
負債	319億円
(市民1人あたり)	64万2千円
純資産	794億円
(市民1人あたり)	159万5千円

■ バランスシートからわかること

バランスシートとは、住民サービスを提供するために保有している資産と、その資産をどのような財源（負債、純資産）で調達してきたかを総括的に対照表示したものです。

赤穂市の資産については、有形固定資産や投資及び出資金の増加などにより、前年度と比べて増加しています。

負債については、投資的事業の推進にともなう地方債の増加などにより、前年度と比べて増加しています。

また、負債と純資産が資産に占める割合を比較すると、負債が28.7%（平成25年度28.3%）、純資産が71.3%（平成25年度71.7%）となり、前年度と比べて純資産の割合がわずかに減少しています。

平成26年度バランスシート（平成27年3月31日現在）

借方		貸方	
資産の部		負債の部	
1. 公共資産	972億円〔6億円〕	1. 固定負債	286億円〔4億円〕
(1) 有形固定資産	967億円〔7億円〕	(1) 地方債	258億円〔11億円〕
(2) 売却可能資産	5億円〔△1億円〕	(2) 退職手当引当金	27億円〔△7億円〕
2. 投資等	114億円〔6億円〕	(3) その他	1億円〔-〕
(1) 投資及び出資金	93億円〔5億円〕	2. 流動負債	33億円〔4億円〕
(2) 貸付金	1億円〔-〕	(1) 翌年度償還予定地方債	22億円〔△1億円〕
(3) 基金等	20億円〔1億円〕	(2) その他	11億円〔5億円〕
3. 流動資産	27億円〔3億円〕	負債合計	319億円〔8億円〕
(1) 現金・預金	26億円〔3億円〕	純資産の部	794億円〔7億円〕
(うち歳計現金)	(3)億円〔-〕	純資産合計	794億円〔7億円〕
(2) 未収金	1億円〔-〕		
資産合計	1,113億円〔15億円〕	負債及び純資産合計	1,113億円〔15億円〕

市民1人あたりのバランスシート（平成27年3月31日現在）

借方		貸方	
資産の部		負債の部	
1. 公共資産	1,954千円〔27千円〕	1. 固定負債	576千円〔13千円〕
(1) 有形固定資産	1,944千円〔29千円〕	(1) 地方債	519千円〔25千円〕
(2) 売却可能資産	10千円〔△2千円〕	(2) 退職手当引当金	55千円〔△12千円〕
2. 投資等	229千円〔13千円〕	(3) その他	2千円〔-〕
(1) 投資及び出資金	187千円〔11千円〕	2. 流動負債	66千円〔7千円〕
(2) 貸付金	1千円〔-〕	(1) 翌年度償還予定地方債	45千円〔△2千円〕
(3) 基金等	41千円〔2千円〕	(2) その他	21千円〔9千円〕
3. 流動資産	54千円〔5千円〕	負債合計	642千円〔20千円〕
(1) 現金・預金	53千円〔5千円〕	純資産の部	1,595千円〔25千円〕
(うち歳計現金)	(6)千円〔(1)千円〕	純資産合計	1,595千円〔25千円〕
(2) 未収金	1千円〔-〕		
資産合計	2,237千円〔45千円〕	負債及び純資産合計	2,237千円〔45千円〕

- 有形固定資産 道路等の社会基盤となる資産、社会教育施設等の公共サービスに供されている資産
- 売却可能資産 遊休資産や未利用資産等の売却が可能な資産
- 投資及び出資金 債券及び株式並びに財団法人等の寄付行為に係る出金等

- 現金預金 歳計現金等
- 未収金 税等の未収金
- 退職手当引当金 特別職を含む全職員が年度末に普通退職したと仮定した場合の退職手当見込額

[注]

- ・普通会計を対象としています。
- ・各表内の〔 〕は、対前年度増減額です。
- ・市民1人あたりの各表は、平成27年3月31日現在の住民基本台帳登録人口（49,769人）で計算しています。
- ・表示単位未満は「-」としています。

4 基金

事業の推進、財源調達のために必要な資金を積立てて運用する基金等の状況は、次表のとおりです。

■ 基金内訳（一般会計＋特別会計）

基金名	現在高	内	外
1 財政調整基金	19億5,774万円	現金	47億3,220万円
2 市債管理基金	3億4,821万円	有価証券	336万円
3 その他特定目的基金	24億2,961万円		
(健康管理施設整備基金)	5億1,577万円		
(都市施設等整備事業基金)	3億6,285万円		
(赤穂ふるさとづくり基金)	611万円		
合計	47億3,556万円		

赤穂市の家計簿 ～一般会計決算を家計に例えると～

市の決算額はおよそ200億円という大きな額のため、このままでは実感がわきにくいものです。そこで、市の財政状況を年収500万円の家計に置き換えて表してみました。

赤穂市の一般会計決算 (平成26年度決算)		赤穂市の家計簿	
収入項目	年間収入	1ヵ月の収入	
市税・使用料手数料など	103億9,456万円	給料・ボーナス	500万円
繰入金	5,441万円	貯金の取崩し	3万円
国県支出金 地方交付税など	80億6,455万円	親からの援助、 子ども手当など	385万円
市債	37億5,481万円	借金	180万円
収入合計	222億1,023万円	収入合計	1,068万円
			89万円

赤穂市の一般会計決算 (平成26年度決算)		赤穂市の家計簿	
支出項目	年間支出	1ヵ月の支出	
人件費	39億4,904万円	生活費(食費)	190万円
扶助費	28億6,355万円	医療費、保育料など	138万円
公債費	30億2,285万円	ローンの返済	146万円
物件費等 補助費等 投資及び出資金 貸付金など	46億8,923万円	光熱水費、電話代、 消耗品、寄付金、冠婚葬祭費、 交際費など	226万円
繰出金	15億4,610万円	子どもへの仕送り	74万円
積立金	2億3,334万円	貯金	11万円
投資的経費	55億7,669万円	自宅のリフォーム、 自家用車購入など	268万円
支出合計	218億8,080万円	支出合計	1,053万円
			88万円

★市債残高 282億152万円 ローン残高 1,357万円（前年度1,313万円）

3 市債

住みよいまちづくりを進めるために、道路や公園、下水道などの生活環境施設や、学校などの教育施設の整備を積極的に行っていますが、単年度の市税等だけでは、これらの財源をまかないきれません。

また、これらの事業効果は後年度に及ぶものであり、後年度の世代との負担を均等にすることからも、必要な財源の一部を市債として借入れ、後年度に市税等で償還（返済）しています。

市債の状況

区分	25年度末 現在高	26年度中増減		26年度末 現在高
		市債借入額	元金償還額	
一般会計	272億69万円	37億5,481万円	27億5,398万円	282億152万円
公共下水道事業特別会計	164億881万円	20億4,670万円	24億9,828万円	159億5,723万円
農業集落排水事業特別会計	20億9,508万円	5,910万円	1億9,801万円	19億5,617万円
駐車場事業特別会計	7億7,805万円		1億976万円	6億6,829万円
合計	464億8,263万円	58億6,061万円	55億6,003万円	467億8,321万円

5 債務負担行為の状況

債務負担行為とは、後年度において支出の義務を負う行為、例えば数年度にわたる工事を一括して契約することです。平成26年度末の状況は、次表のとおりです。

債務負担行為の状況

事業名	債務負担行為限度額	期間	27年度以降支出予定額
公共施設等総合管理計画策定事業	900万円	平27～平28	900万円
高度情報化推進事業	4億3,754万円	平23～平28	7,093万円
福浦地区コミュニティセンター指定管理料	228万円	平27～平29	228万円
戸籍事務電算化事業	1億6,695万円	平23～平28	4,910万円
総合福祉会館等施設指定管理料	3,487万円	平27～平29	3,487万円
農村多目的共同利用施設指定管理料	330万円	平27～平29	330万円
土地改良事業補助(団体営)	70万円	平26～平30	70万円
土地改良施設維持管理適正化事業	460万円	平25～平29	341万円
御崎レストハウス指定管理料	1,654万円	平27～平29	1,654万円
まちづくり会館指定管理料	399万円	平27～平29	399万円
都市公園指定管理料	1億4,766万円	平27～平29	1億4,766万円
赤穂元禄スポーツセンター及び赤穂海浜スポーツセンター指定管理料	2,600万円	平27～平29	2,600万円
防災行政無線整備事業	3億401万円	平26～平28	3億401万円
幼稚園舎改築事業	1億8,000万円	平27～平28	1億8,000万円
民俗資料館指定管理料	1,736万円	平27～平29	1,736万円
歴史博物館指定管理料	3,370万円	平27～平29	3,370万円
海洋科学館指定管理料	3,212万円	平27～平29	3,212万円
文化会館指定管理料	1億3,966万円	平27～平29	1億3,966万円
美術工芸館指定管理料	2,818万円	平27～平29	2,818万円
市民総合体育館及び城南緑地運動施設等指定管理料(平成24年度設定)	2億6,082万円	平24～平28	1億3,041万円
市民総合体育館及び城南緑地運動施設等指定管理料(平成25年度設定)	840万円	平25～平28	560万円
市民総合体育館及び城南緑地運動施設等指定管理料(平成26年度設定)	132万円	平26～平28	132万円
野外活動センター指定管理料	1,700万円	平27～平29	1,700万円

③純資産変動計算書

期首純資産残高	787億円
(市民1人あたり)	158万1千円
年間変動額	+7億円
(市民1人あたり)	+1万4千円
期末純資産残高	794億円
(市民1人あたり)	159万5千円

純資産変動計算書 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	全 体	市民1人あたり
1. 期首純資産残高	787億円	1,581千円
2. 純経常行政コスト	△162億円	△326千円
3. 財源調達	169億円	340千円
(1) 地方税	86億円	173千円
(2) 地方交付税	31億円	63千円
(3) 経常補助金	29億円	59千円
(4) 建設補助金	11億円	21千円
(5) その他収入	12億円	24千円
4. その他	0億円	0千円
5. 期末純資産残高	794億円	1,595千円

■純資産変動計算書からわかること

純資産変動計算書とは、バランスシートの純資産の部に計上されている各数値が、1年間でどのように変動したかを表したものです。純資産の部は、今までの世代が負担してきた部分ですので、純資産が増加すると、現役世代が自らの負担によって、将来世代も利用可能な資産を蓄積し、将来世代の負担を軽減していることを表します。反対に純資産が減少すると、現役世代が将来世代にとっても利用可能であった資産を消費して行政サービスを受け一方で、将来世代にその分の負担を先送りすることを表しています。

平成26年度バランスシートの純資産残高である「期首純資産残高」が787億円(市民1人あたり158万1千円)、平成26年度バランスシートの純資産残高である「期末純資産残高」は794億円(市民1人あたり159万5千円)で、差引7億円(市民1人あたり1万4千円)の純資産の増額となっています。

用語解説

- 期首純資産残高 前年度末の純資産の額
- 純経常行政コスト 行政コスト計算書により算定される数値
- その他 資産の除売却損益、資産の再評価による損益等

④資金収支計算書

経常的収支	44億円
(市民1人あたり)	8万8千円
公共資産整備収支	△7億円
(市民1人あたり)	△1万4千円
投資・財務的収支	△37億円
(市民1人あたり)	△7万3千円
当期収支	-1億円
(市民1人あたり)	1千円

資金収支計算書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	全 体	市民1人あたり
1. 経常的収支	44億円	88千円
2. 公共資産整備収支	△7億円	△14千円
3. 投資・財務的収支	△37億円	△73千円
4. 当期収支	-1億円	1千円
5. 期首資金残高	3億円	5千円
6. 期末資金残高	3億円	6千円
(基礎的財政収支)		
収入総額	215億円	432千円
支出総額	△213億円	△428千円
地方債発行額	△34億円	△68千円
地方債元利償還額	26億円	52千円
減債基金等増減額	2億円	4千円
7. 基礎的財政収支	△4億円	△8千円

■資金収支計算書からわかること

資金収支計算書とは、歳計現金(=資金)の出入りの情報を、「経常的収支の部」、「公共資産整備収支の部」及び「投資・財務的収支の部」の3つの区分に分けて表示したものです。

経常的収支は、人件費や物件費などの支出と、地方税や地方交付税などの収支であり、44億円(市民1人あたり8万8千円)の資金余剰(黒字)となっています。

公共資産整備収支は、社会資本整備への支出と、その財源となった国・県補助金や地方債などの収支であり、7億円(市民1人あたり1万4千円)の資金不足(赤字)となっています。

投資・財務的収支は、地方債の償還、貸付金などの支出と、その財源となった国・県補助金や貸付金の回収額などの収支であり、37億円(市民1人あたり7万3千円)の資金不足となっています。

全体の当期収支としては、経常的収支における資金余剰により、公共資産整備収支、投資・財務的収支で生じている資金不足を補てんし、期末資金は期首資金と同額の3億円(市民1人あたり6千円)となっています。



用語解説

- 経常的収支 経常的な行政活動の収支で、その他の収支に含まれないもの
- 公共資産整備収支 公共資産の整備にかかる収支
- 投資・財務的収支 地方債の元利償還、発行額の収支等
- 基礎的財政収支 公債費関連の歳入・歳出を除いた基礎的な財政収支(プライマリーバランス)

②行政コスト計算書

経常行政コスト	172億円
(市民1人あたり)	34万4千円
経常収益	10億円
(市民1人あたり)	1万8千円
純経常行政コスト	162億円
(市民1人あたり)	32万6千円

■行政コスト計算書からわかること

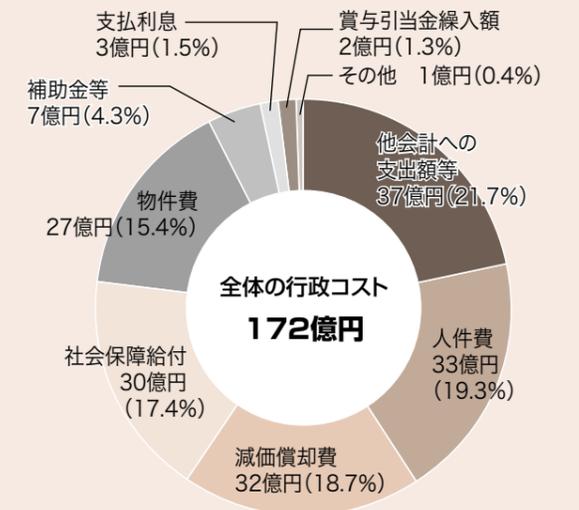
行政コスト計算書とは、1年間の行政活動のうち、資産形成につながらない人的サービスや福祉の給付サービスなどのための経費と、それに対する直接の対価として得られた財源を対比させたものです。

平成26年度における赤穂市の経常行政コストは172億円(市民1人あたり34万4千円)、費用を賄うための経常収益(受益者負担)は10億円(市民1人あたり1万8千円)で、差引の純経常行政コスト162億円(市民1人あたり32万6千円)は、地方税や地方交付税といった一般財源等で賄われています。

平成26年度 行政コスト計算書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

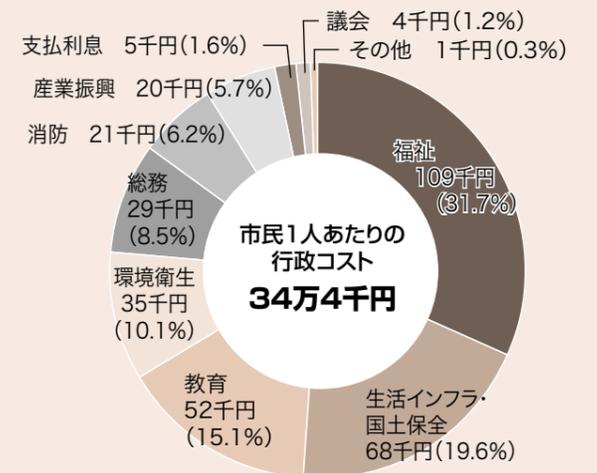
経常行政コスト	172億円(△32億円)
1. 人にかかるコスト	34億円(△3億円)
(1) 人件費	33億円(-)
(2) 退職手当引当金繰入等	△1億円(△3億円)
(3) 賞与引当金繰入額	2億円(-)
2. 物にかかるコスト	60億円(2億円)
(1) 物件費	27億円(2億円)
(2) 維持補修費	1億円(-)
(3) 減価償却費	32億円(-)
3. 移転支的コスト	74億円(△31億円)
(1) 社会保障給付	30億円(2億円)
(2) 補助金等	7億円(△35億円)
(3) 他会計への支出額等	37億円(2億円)
4. その他のコスト	4億円(- 億円)
(1) 支払利息	3億円(-)
(2) その他行政コスト等	1億円(-)
経常収益	10億円(-)
1. 使用料・手数料	5億円(-)
2. 分担金・負担金・寄附金	5億円(-)
純経常行政コスト	162億円(△32億円)
(経常行政コスト-経常収益)	



市民1人あたりの行政コスト計算書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

経常行政コスト	344千円(△62千円)
1. 人にかかるコスト	68千円(△6千円)
(1) 人件費	66千円(1千円)
(2) 退職手当引当金繰入等	△2千円(△7千円)
(3) 賞与引当金繰入額	4千円(-)
2. 物にかかるコスト	120千円(4千円)
(1) 物件費	53千円(3千円)
(2) 維持補修費	3千円(-)
(3) 減価償却費	64千円(1千円)
3. 移転支的コスト	150千円(△59千円)
(1) 社会保障給付	60千円(5千円)
(2) 補助金等	15千円(△69千円)
(3) 他会計への支出額等	75千円(5千円)
4. その他のコスト	6千円(△1千円)
(1) 支払利息	5千円(△1千円)
(2) その他行政コスト等	1千円(-)
経常収益	18千円(△1千円)
1. 使用料・手数料	9千円(-)
2. 分担金・負担金・寄附金	9千円(△1千円)
純経常行政コスト	326千円(△61千円)
(経常行政コスト-経常収益)	



用語解説

- 退職手当引当金繰入等 将来の退職手当のうち当期に発生した分
- 物件費 旅費、備品購入費等
- 社会保障給付 生活保護費等
- 他会計への支出額等 特別会計等他会計への財政支出



患者利用の状況

1. 診療科別一日平均患者数

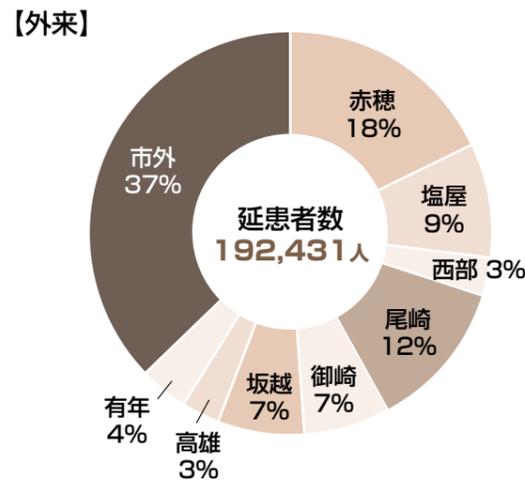
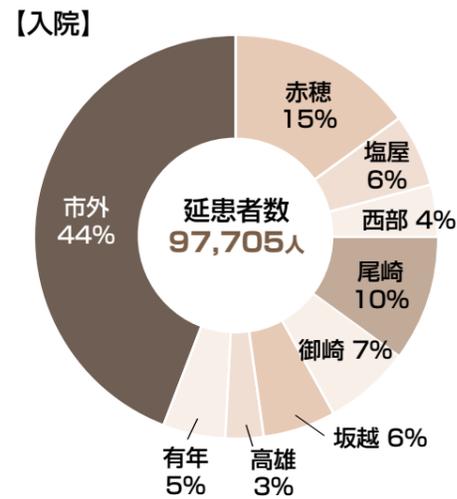
【病院】 (単位：人)

区分	内科	呼吸器科	消化器内科	循環器科	小児科	外科	産婦人科
入院	24.8	0.0	39.4	60.4	4.2	34.4	13.8
外来	127.2	21.1	109.1	90.4	35.6	55.2	34.3
区分	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	整形外科	泌尿器科	放射線科	脳神経外科
入院	0.2	3.1	0.8	49.0	14.6	0.0	19.5
外来	16.4	34.4	36.6	87.8	42.9	14.7	23.4
区分	麻酔科	形成外科	心療内科	精神科	歯科口腔外科	計	
入院	0.4	1.5	0.0	0.0	1.6	267.7	
外来	10.2	14.9	7.5	0.0	27.0	788.7	

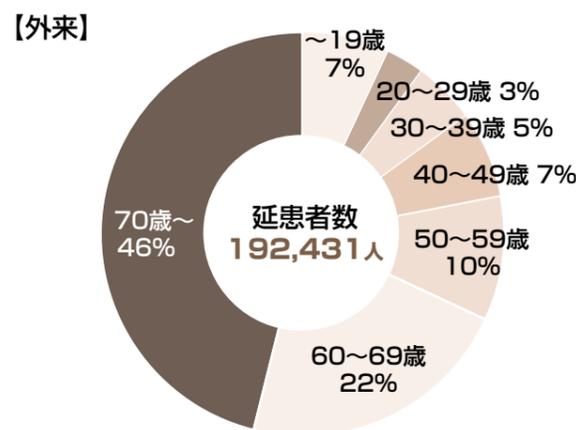
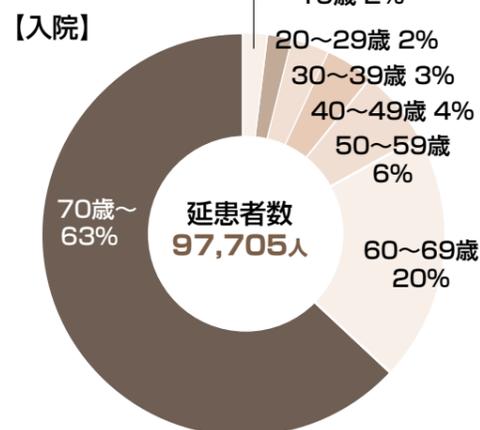
【診療所】 (単位：人)

区分	高雄	福浦	有年	合計
外来	8.8	11.7	13.6	34.1

2. 地区別患者比率



3. 年齢別患者比率



業務の状況

平成26年度の延利用患者数は入院97,705人、外来192,431人でした。

一日平均患者数は入院268人、外来789人で、医師、看護師など総勢412人の職員で医療活動を行いました。

全国的な医師不足の影響を受けて、診療科によっては医師が偏在する状況ではありますが、新棟建設や最新医療機器の導入を行う「第二期基本構想」を早期実現するため、基本設計に取り組むとともに、立体駐車場の建設工事を行いました。

さらに、平成26年12月には西播磨で初めてとなる地域医療支援病院に指定されたところであり、今後診療所など地域の医療機関との連携をより一層推進してまいります。また、救急隊員の知識・技術の向上とより良質な救急医療実現のため、消防本部と連携し「救急ワークステーション」を開設いたしました。

医療機器においては、超音波画像診断装置の整備や放射線治療計画システムの充実を行ったほか、建設工事においては、節電効果を高めるLED照明器具への切り替え工事等を行いました。

経理の状況

経営状況を表す収益的収支については、総収益8,664,783,348円、総費用10,311,684,486円となり、1,646,901,138円の赤字となりました。

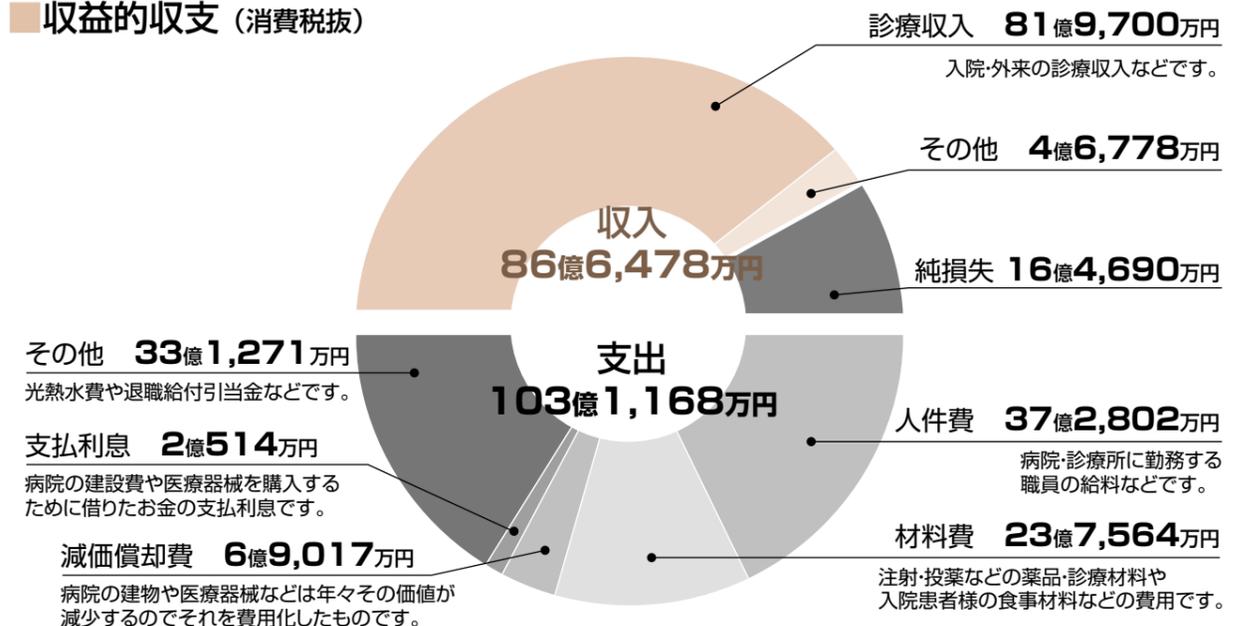
資本的収支は、企業債などの収入749,269,681円に対し、医療機器整備などの支出1,215,194,614円となり、その差額465,924,933円については、内部留保資金で補てんいたしました。

今後の病院運営

今後の病院運営については、平成25年3月に策定した「第2次赤穂市民病院改革プラン」に基づき、医師・看護師等医療従事者の確保に継続的に取り組み、早期の診療体制の回復に努めるとともに、患者ニーズに合った診療体制の整備と病院経営の健全性維持に努めてまいります。

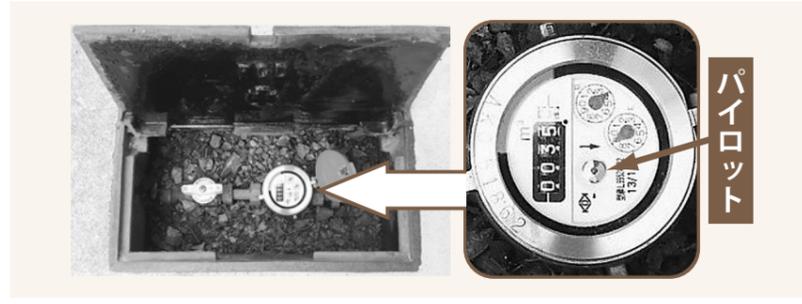
また、平成27年3月に国において新たな公立病院改革ガイドラインが策定されたことから、新ガイドラインを踏まえた公立病院改革を進めてまいります。

収益的収支（消費税抜）



水道事業の決算

問い合わせ先
上下水道部総務課 ☎43・6888



196項目の検査で安全な水を安定的に 平成26年度の水道水質

平成26年度の水質検査の結果は次のとおりで、厚生労働省が定めたすべての水質基準値を満たしています。また、これら水質基準項目(51項目)に加え、目標設定項目26項目(農業120項目含む)の検査を随時行い、より安全で良質な水を安定的に供給しています。
なお、放射性物質のモニタリング調査の結果、放射性物質の影響はなく、安全です。

給水栓水質測定結果(26年度平均値) 「<」は定量限界未満

番号	検査項目	基準値等	北部水源系給水栓	南部水源系給水栓	備考
1	一般細菌	100個/mℓ以下	0	0	病原微生物
2	大腸菌	検出されないこと	不検出	不検出	
3	カドミウム及びその化合物	0.003mg/ℓ以下	<0.0003	<0.0003	
4	水銀及びその化合物	0.0005mg/ℓ以下	<0.00005	<0.00005	
5	セレン及びその化合物	0.01mg/ℓ以下	<0.001	<0.001	重金属
6	鉛及びその化合物	0.01mg/ℓ以下	<0.001	<0.001	
7	ヒ素及びその化合物	0.01mg/ℓ以下	<0.001	<0.001	
8	六価クロム化合物	0.05mg/ℓ以下	<0.005	<0.005	
9	亜硝酸態窒素	0.04mg/ℓ以下	<0.004	<0.004	
10	シアン化物イオン及び塩化シアン	0.01mg/ℓ以下	<0.001	<0.001	
11	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	10mg/ℓ以下	1.88	0.79	無機物
12	フッ素及びその化合物	0.8mg/ℓ以下	0.12	0.12	
13	ホウ素及びその化合物	1.0mg/ℓ以下	0.02	<0.01	
14	四塩化炭素	0.002mg/ℓ以下	<0.0002	<0.0002	
15	1,4-ジオキサン	0.05mg/ℓ以下	<0.005	<0.005	
16	ジ-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/ℓ以下	<0.001	<0.001	有機物
17	ジクロロメタン	0.02mg/ℓ以下	<0.001	<0.001	
18	テトラクロロエチレン	0.01mg/ℓ以下	<0.001	<0.001	
19	トリクロロエチレン	0.01mg/ℓ以下	<0.001	<0.001	
20	ベンゼン	0.01mg/ℓ以下	<0.001	<0.001	
21	塩素酸	0.6mg/ℓ以下	<0.06	<0.06	
22	クロロ酢酸	0.02mg/ℓ以下	<0.002	<0.002	
23	クロロホルム	0.06mg/ℓ以下	<0.001	<0.001	
24	ジクロロ酢酸	0.04mg/ℓ以下	<0.004	<0.004	
25	ジブromクロロメタン	0.1mg/ℓ以下	<0.001	0.002	消毒副生成物
26	臭素酸	0.01mg/ℓ以下	<0.001	<0.001	
27	総トリハロメタン	0.1mg/ℓ以下	0.002	0.004	
28	トリクロロ酢酸	0.2mg/ℓ以下	<0.02	<0.02	
29	プロモジクロロメタン	0.03mg/ℓ以下	<0.001	0.001	
30	プロモホルム	0.09mg/ℓ以下	0.001	<0.001	
31	ホルムアルデヒド	0.08mg/ℓ以下	<0.008	<0.008	
32	亜鉛及びその化合物	1.0mg/ℓ以下	<0.01	<0.01	
33	アルミニウム及びその化合物	0.2mg/ℓ以下	<0.02	0.02	着色
34	鉄及びその化合物	0.3mg/ℓ以下	<0.01	<0.01	
35	銅及びその化合物	1.0mg/ℓ以下	<0.01	<0.01	
36	ナトリウム及びその化合物	200mg/ℓ以下	8.1	5.9	味
37	マンガン及びその化合物	0.05mg/ℓ以下	<0.005	<0.005	着色
38	塩化物イオン	200mg/ℓ以下	12	7.2	
39	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	300mg/ℓ以下	78.6	50.7	味
40	蒸発残留物	500mg/ℓ以下	121	80	
41	陰イオン界面活性剤	0.2mg/ℓ以下	<0.02	<0.02	発泡
42	ジェオスミン	0.00001mg/ℓ以下	<0.000001	<0.000001	
43	2-メチルイソボルネオール	0.00001mg/ℓ以下	<0.000001	<0.000001	カビ臭
44	非イオン界面活性剤	0.02mg/ℓ以下	<0.005	<0.005	発泡
45	フェノール類	0.005mg/ℓ以下	<0.0005	<0.0005	臭気
46	有機物(全有機炭素)	3mg/ℓ以下	<0.3	<0.3	味
47	pH値	5.8~8.6	7.1	7.0	
48	味	異常でないこと	異常なし	異常なし	
49	臭気	異常でないこと	異常なし	異常なし	基礎的性状
50	色度	5度以下	<1.0	<1.0	
51	濁度	2度以下	<0.1	<0.1	

北部水源系給水栓：有年地区(採水場所：西有年、有年原地区)
南部水源系給水栓：有年地区以外(採水場所：周世、坂越、福浦、御崎地区)

漏水にご注意を

水道の使用水量が前回と比べて急に多くなった場合は、漏水をしていることが考えられます。
家屋内の蛇口等を全部閉めてもメーターのパイロットが回っているようでしたら、漏水の可能性があります。すみやかに赤穂市指定給水装置工事業者に依頼して修理してください。

水道メーターの検針にご協力を

赤穂市では2ヵ月ごとに水道メーターの検針をしています。次のことについて、皆さまのご協力をお願いします。
○水道メーターボックスの上には、自動車や物を置かないでください。
○水道メーターボックスの中は、いつもきれいにしておいてください。
○犬は、出入口や水道メーターボックスから離してつないでください。

水道使用水量等のお知らせ

2ヵ月ごとに検針をして「水道使用水量等のお知らせ」を各戸に通知しています。
主な内容は、①今回の使用水量②今回請求予定金額と納付(振替)予定日③水道料金と下水道使用料(又は排水処理施設使用料)④前回分口座振替内容⑤通信欄と裏面でお願ひ事項等をお知らせしています。

水道料金等の納付は便利な口座振替を

水道料金は下水道使用料(又は排水処理施設使用料)とともに2ヵ月ごとにいただいています。(納入期日は検針の翌月25日ですその日が金融機関の営業日でない日はその翌日)納入期日を忘れていたり、お支払いに出向くなどの手間が省ける便利な口座振替をぜひご利用ください。

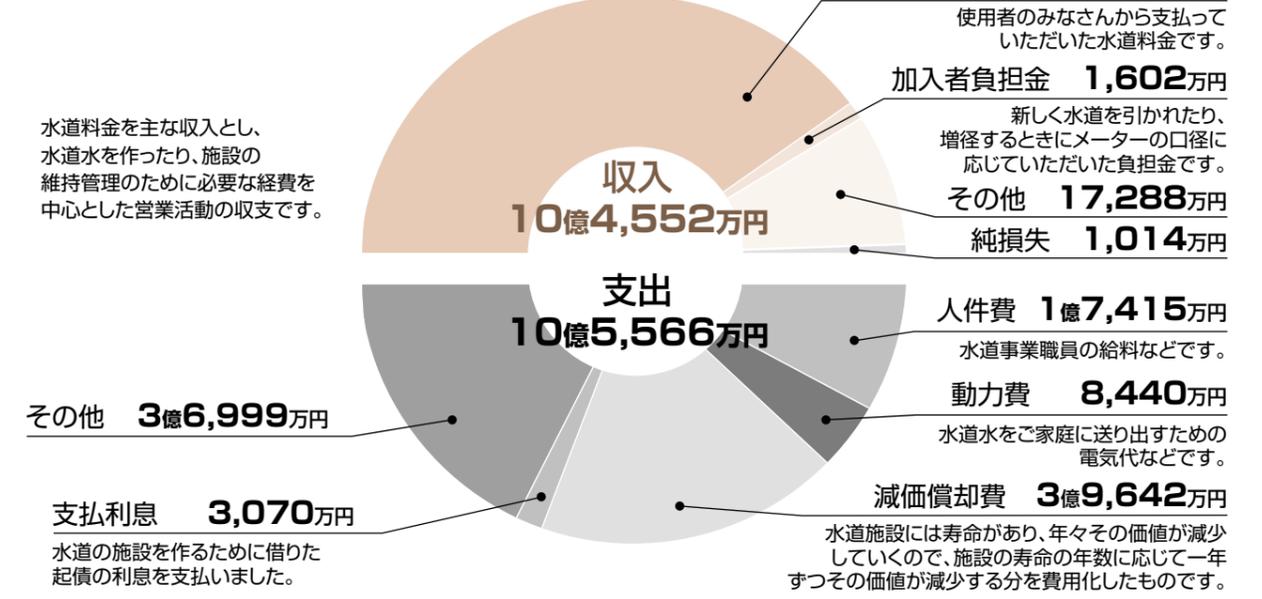
業務の状況

平成26年度は、49,769人の方々に1日平均35,661㎡の水をご使用いただき、収益的収支は総収益1,045,523,041円、総費用1,055,662,619円となり、10,139,578円の赤字となりました。これは、平成26年度から適用された新会計基準等に伴い、単年度支出が増加したことが主な理由です。
資本的収支は、水道施設の建設事業を実施し、支出895,931,436円に対し、収入388,469,654円となっています。平成26年度の水質検査は次のとおりです。
なお、国等からの借入金(起債)残高は1,664,294,826円で、これは長期にわたり水道料金をもって計画的に返済していくことにしています。

平成26年度の主な建設改良工事

- 配水管布設工事
事業費 91,792,440円
・宅地開発などに伴い、新しい管を布設しました。(平成26年度は、2,407.0m新設しました)
- 配水管改良等工事
事業費 290,409,025円
・老朽化した配水管を新しい管に取り替えました。(平成26年度は、2,275.8m改良しました)
- 原水施設改良工事
事業費 268,828,200円
・北野中浄水場管理棟耐震補強など施設を整備しました。

収益的収支(消費税抜)



平成27年度予算 上半期の状況

9月補正予算までに、平成26年度へ予算の前倒しを行った事業について1億400万円を減額したほか、臨時福祉給付金支給事業に6,569万円、子育て世帯臨時特例給付金支給事業に2,580万円などを計上しました。

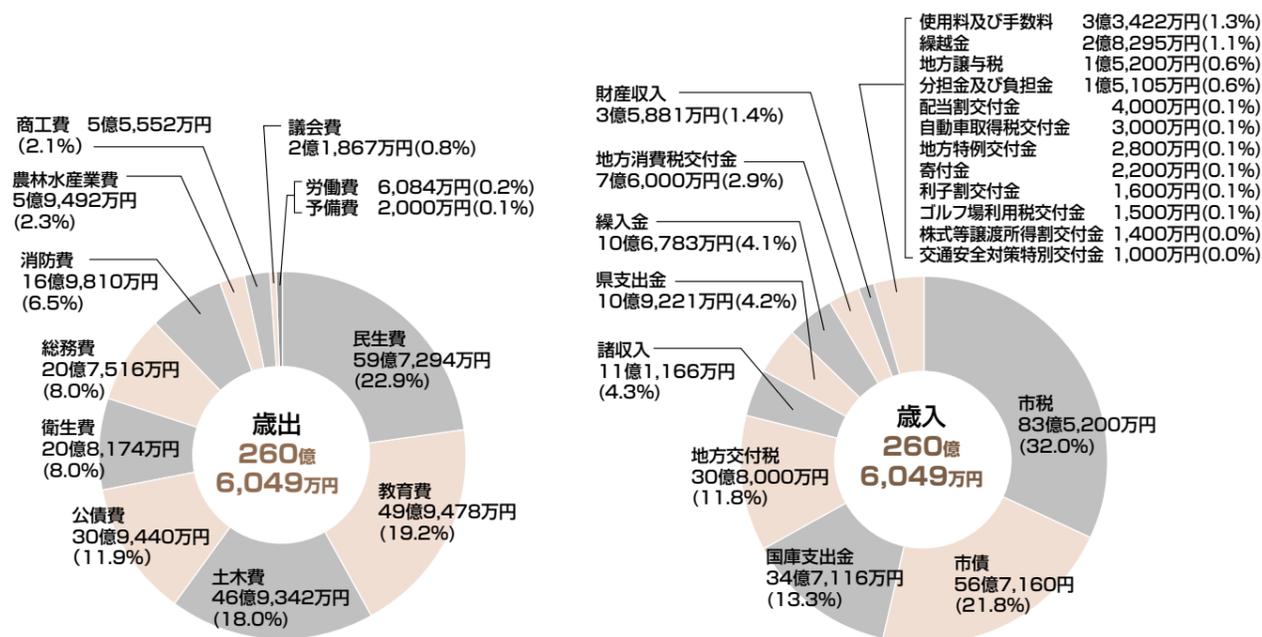
これにより特別会計、企業会計を合わせた9月補正後の平成27年度予算総額は、当初より6億4,707万円増加し、567億608万円となっています。



各会計別予算状況

会計区分	平成27年度 当初予算額	9月補正まで	平成27年度 現計予算額	
一般会計	256億 5,000万円	4億 1,049万円	260億 6,049万円	
特別会計	国民健康保険事業	64億 6,700万円	6,740万円	65億 3,440万円
	職員退職手当管理	6億 9,840万円		6億 9,840万円
	公共下水道事業	41億 9,880万円	2,661万円	42億 2,541万円
	農業集落排水事業	3億 920万円		3億 920万円
	墓地公園整備事業	1,200万円		1,200万円
	介護保険	39億 6,390万円	2,593万円	39億 8,983万円
企業会計	駐車場事業	1億 2,750万円		1億 2,750万円
	後期高齢者医療保険	6億 6,460万円		6億 6,460万円
	小計	164億 4,140万円	1億 1,994万円	165億 6,134万円
企業会計	病院事業	112億 6,461万円	1億 1,664万円	113億 8,125万円
	介護老人保健施設事業	4億 9,079万円		4億 9,079万円
	水道事業	22億 1,221万円		22億 1,221万円
	小計	139億 6,761万円	1億 1,664万円	140億 8,425万円
合計	560億 5,901万円	6億 4,707万円	567億 608万円	

一般会計予算の内訳 (9月補正後)



介護老人保健 施設事業の決算

問い合わせ先
介護老人保健施設 ☎42・1005

業務の状況

平成26年度の入所利用者につきましては、短期利用者は増加しましたが、長期利用者が減少したため、結果として前年度に比べて利用者数は減少しました。

また、通所利用者につきましても、前年度に比べて利用者数は1人減少しました。

平成26年度の入所利用者数は延15,627人(一日平均42.8人)、通所利用者数は延3,978人(一日平均16.6人)となりました。

経理の状況

経営状況を表す収益的収支については、総収益

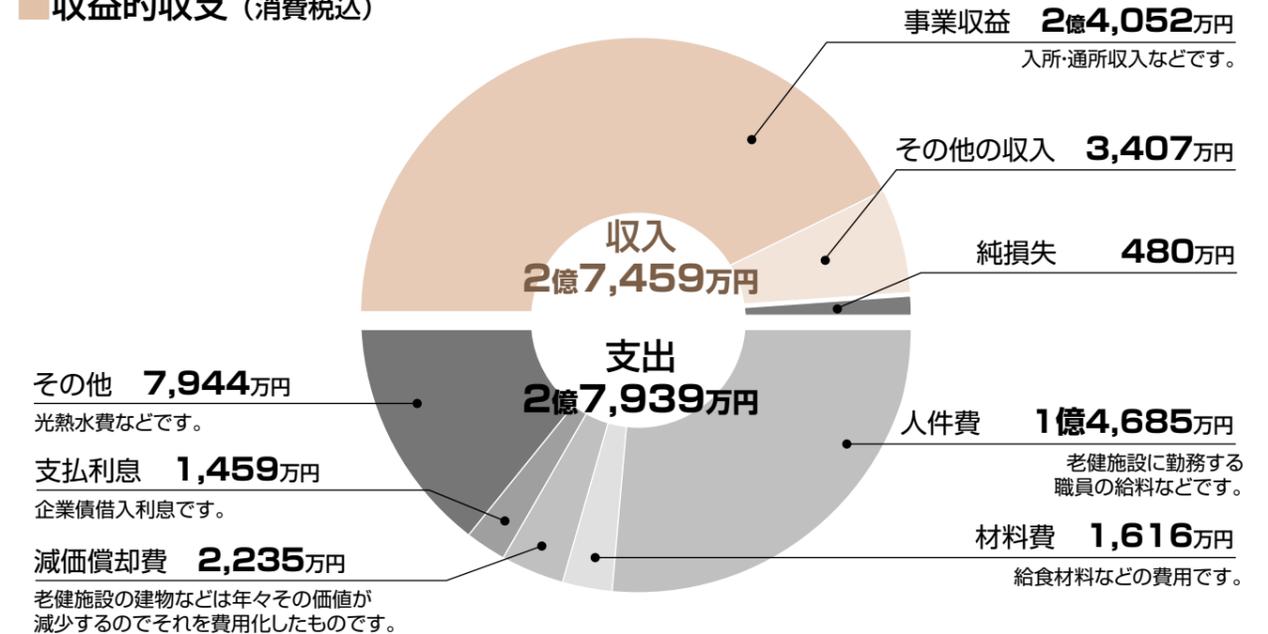
274,591,617円、総費用279,388,644円となり、4,797,027円の純損失となりました。

資本的収支は、収入総額48,181,296円、支出総額52,146,276円となり、差引不足額3,964,980円は内部留保資金で補てんしました。

今後の老健施設運営

介護老人保健施設の目的である「在宅復帰、在宅生活支援」の機能を果たし、利用者皆さまに満足いただけるようサービスの質の向上に努めるとともに、利用効率を高めることにより経営の安定に取り組んでまいります。

収益的収支 (消費税込)



利用者の状況

(単位：人)

区分	延利用者数		一日平均利用者数
	長期	短期	
入所	13,416	2,211	36.8
通所		3,978	6.0
計	15,627		42.8



写真で見る決算

赤穂すこやかセンター整備事業



事業費**2億1,296万円**

保健・福祉の拠点施設として、健康づくりと子育て支援機能を含む赤穂すこやかセンターの整備に着手し、子育て環境の一層の充実を図っています。

一般財源
1,455万円
市債
5,470万円

国庫支出金
1億4,371万円

義士祭パレード等事業



事業費**2,521万円**

日曜日開催となった義士祭は、前夜祭では、プロジェクションマッピングを実施し、当日は、松平健さん出演の義士行列を実施するなど、市民のみなさんとともに市の一大イベントとして盛大に開催しました。

一般財源
2,521万円

尾崎・御崎地区都市再生整備事業



事業費**4億4,685万円**

赤穂海浜公園北側の赤穂海浜スポーツセンターの整備などを進め、赤穂海浜公園を核としたスポーツ・レクリエーション拠点としての機能向上を図っています。

一般財源ほか
2,561万円

市債
2億6,830万円

国庫支出金
1億5,294万円

市民病院整備事業（第二期基本構想の推進）



事業費**1億3,176万円**

「第二期基本構想」早期実現のため、新病棟建設等基本設計及び立体駐車場の整備に着手し、「医師にも患者様にも選ばれる病院づくり」を推進しています。

一般財源
2,376万円

市債
1億800万円

防災行政無線整備事業



事業費**1億8,687万円**

地震、津波、風水害等の自然災害から、市民の生命、身体を守るため、防災行政無線の本体工事に着手し、迅速・的確な情報伝達体制の整備を推進しています。

一般財源
947万円

市債
8,400万円

国庫支出金
9,340万円

土地区画整理事業



事業費**4億1,072万円**

有年地区、野中・砂子地区、浜市地区における土地区画整理事業を推進し、道路や公園の整備並びに宅地の利用促進を図り、快適で機能的な生活空間の創出を推進します。

一般財源ほか
2,110万円

市債
1億7,770万円

国庫支出金
2億1,192万円

育児健康支援事業



事業費**148万円**

新たに、父親の育児参加と成人までの健康記録を加えた親子健康手帳の交付を開始したほか、生後5か月児対象のベビーレッスンを実施するなど、継続的な健康管理、育児支援を推進しています。

一般財源
148万円

市民憲章

わたくしたちの赤穂市は、播磨灘と千種川の清流にはぐくまれ、古い歴史と伝統をもつ、義士発祥のまちです。

このまちを愛するわたくしたちは誇りと責任をもち、自然と調和のある豊かで希望にみちたふるさとづくりをめざし、ここに市民憲章を定めます。

1. 自然と歴史を大切に、美しいまちをきずきます。
1. 教養を高め、文化の向上につとめます。
1. 健康で働き、明るい家庭をつくります。
1. 互いに助け合い、愛の輪をひろげます。
1. きまりを守り、秩序ある生活をおくれます。